

## 前書き

僕は人力舎のお笑い学校「スクールJCA」で、20年にわたってお笑いを教えてきました。他の事務所でもネタの指導をしたり、テレビやラジオのネタ番組でもオーディションに立ち会ったりしていました。そして「スクールJCA」の校長を務めるうちに、実現させたいと思つたことが、「お笑いを目指すすべての人の役に立つお笑いの教科書を作りたい」ということでした。

それが、この本を書くきっかけです。

お笑い学校には、「自分は面白い」という自覚もないまま入学してくる子もいます。中には、ひきこもりからの脱出を目的に入学してくる子も。

そんな「口下手」で「引つ込み思案」で「面白い」と言われたこともない子が、人と話すことに苦手意識がなくなり、皆を笑わせるようになり、お笑いの世界で居場所を見つけ、漫才やコントのいい台本が書けるようになり、ついには人気者に……。そんな一人の芸人のサクセスストーリーをイメージして、この本を書きました。

また、ここ数年、ビジネスマンをターゲットに「面白い人になって仕事に生かそう」……そんな講演やセミナーも開催するようになりました。すると、コミュニケーションで悩んでいるビジネスマンの方も大勢いることがわかりました。

実はお笑い芸人は、テレビを通して茶の間という不特定多数の人に対して、自分をアピールし、多くのファンを獲得していくという、ものすごく優秀なビジネスマン。

ならば、お笑い芸人が知らず知らずのうちに実践している「第一印象をよくするコツ」「愛すべき人間であることを伝える話術」「また一緒に仕事がしたいと思わせるテクニック」など、お笑いのさまざまなのウハウは、ビジネスシーンでも役に立つはず。

とくに「コミュニケーションは苦手」「よく面白くないと言われる」……そんなビジネスマンの方こそ、自分の弱点や欠点を笑いに変えるお笑いの手法は、一発逆転のチャンスとなるはずですよ。

近年、「AIの導入で多くの仕事がなくなる」と言われます。そんな中でも、高度なコミュニケーション能力を必要とする仕事は生き残るのだとか。ならば、お笑いのノウハウを身につけたビジネスマンも、きつと重宝されるはずです。

口ベタで、人と喋るのが苦手なビジネスマンが、苦手意識を解消し、積極的に話し、笑いを取れるようになり、誰からも愛されるビジネスマンに……。そんなノウハウも書き加えました。

簡単に内容に触れると、第1章は、自分のこれまでのストーリーを簡単にまとめました。「即、役に立つノウハウを……」という方は、ここをパスしても構いません。

そして第2章の大きなテーマは、「本音を言える人になる」と「自分の失敗談、格好悪い話が言える人になる」。続く第3章の柱は「キャラを作る」。これらは、面白いお笑い芸人となるために、コミュニケーション能力の高いビジネスマンになるために、クリアすべき3つのステップと考えています。

第4章は、芸人を目指す人、若手芸人に向けて「初心者のための漫才やコントの作り方」。

そして最終章では「売れる芸人となるために」「成功するビジネスマンになるために」……、そんなノウハウにも迫りました。

もちろん、すべてのノウハウは、誰から教わったものでもなく、20年にわたって考え続けてきた僕のオリジナルです。

この本が1人でも多くの若手芸人の笑いの教科書となり、コミュニケーションが苦手なビジネスマンのための本場に役立つ実用書となることを、心から願っています。